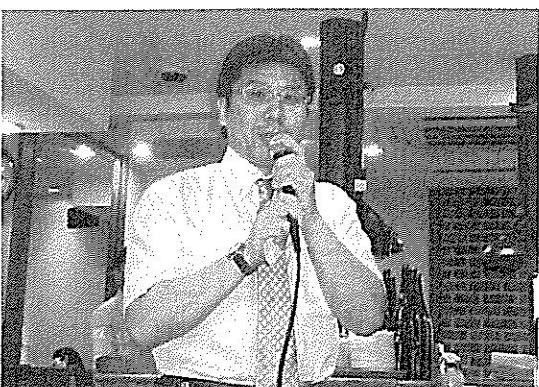
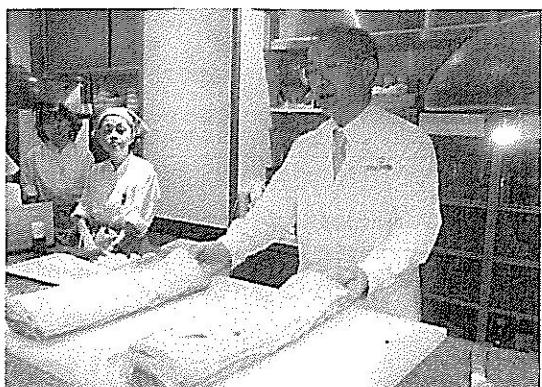


トピックス

「あぐー」を「TOKYO X」に次ぐブランドに ミートコンパニオンが 新たなブランド戦略展開



あいさつする(株)日本カイハツミートの阿部昌史社長



「あぐー」の説明をする植村光一郎氏



「あぐー」を試食する流通・外食関係者



「アグー75%」(左)と「アグー50%」。75%のものの方が明らかに短い

「アグー」のブランド化を図つてい
く考えを示した。

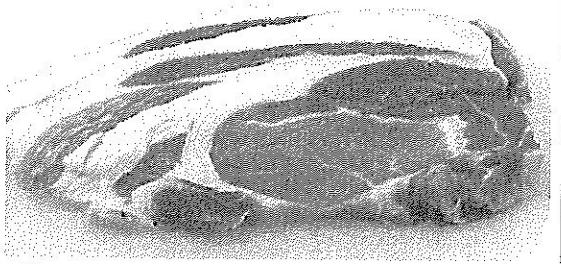
今回、試食に供された「アグ
ー75%」は、194日齢でと畜さ
れたもので、35キロからの肥育
期間中の飼料は、穀物（トウモ
ロコシ、マイロ、大麦）78%、
大豆粕15%、魚粉2%。その他
(アルファルファミール、リン
酸カルシウム、炭酸カルシウム、
食塩)5%で、TDNが76%程
度、CPは15%という内容で、
出荷時の体重は95キロ、枝肉重
量(皮付き)は72キロだった。
脂肪の融点は約39°Cで、一般豚
が35°C程度なのに比べ高く、ラ
ードタイプであることを物語っ
ている(ちなみに「TOKYO
X」の脂肪の融点は29°C)。

また、胸椎と腰椎の数が一般
豚は20~21本なのに対し、「ア
グー」は19本と少なく、高級部
位の割合が少なく、背線も緩い。
「アグー50%」と「アグー75%」
を比べると、当然、後者の方が
その特徴をよく表している。

「沖縄には長い間、豚に対する
品種としての概念がなく、島
豚としてはアグーとアヨーが挙
げられる。どちらも日本種豚登録協
会に登録されておらず、銘柄化政策
でアグーを前面にアピールを仕掛け
たと同時に、大きくマスコミに取り
上げられてしまい、きちんととした管
理体制ができる前に、販売が先行し
て多くの重種が「アグー」もしくは
「島豚」として林立してしまってい
るのが現状である」などと植村氏は
育種面での問題点などを指摘する
とともに、今後、ミートコンパニオン
で取り扱っていく「アグー」(アグー
50%)は、沖縄県畜産センターで管
理されたJAおきなわ指定農場で年
間1万2000頭が生産され、そ
り、そのうち本土にはすでに5000
頭ほど出荷されていることなどを
説明した。

「アグー」(アグー50%)の卸売価
格は現在、セットで1キロ1250円。
「TOKYO X」の1302円
に比べればやや安いが、白系の一般
豚がセットで700円程度という最
近の状況からすれば、すでに高い地
位にあるブランド豚であることは間
違いない。ミートコンパニオン
が「アグー」を新たな武器として、
今後いかなるブランド戦略を展開す
るかに注目が集まりそうだ。

ラードタイプで筋間脂肪が多いのが特徴。
意外に脂肪はあっさりしている



京都立川市、阿部徳次社長)は7月
16日、同社直営の焼肉店「暖らん亭
立川店」(東京都立川市)で、沖
縄在来豚「アグー」(注1)を交配
した肉豚の試食会を開催した。この
催しは、今年6月、同社の営業本部
執行役部長で、TOKYO X - Associa-
tion会長の植村光一郎氏らが沖縄畜
産研究センターを訪れた際、琉球在
来種の「アグー」の雌に「アヨー」
(注2)の雄を交配したF1雌に、
「アグー」の雄を戻し交配した「ア
グーBC1」(アグーバッククロス
豚)(「アグー75%」)の同研究センタ
ー研究用肥育試験豚10頭のうち1頭
を譲り受けたことをきっかけに、同
社で「アグー」を交配させた肉豚「ア
グー」(注3)を新たなブランド豚
肉として販売していくことを計画
し、本格的な販売を前に取引先に「ア
グー」を試食してもらおうと開かれ
たもの。試食会では、「アグー」の
雄豚と白系(LW、WLS)の雌豚を
交配させた「アグー50%」の肉豚と、
比較対象として先述の「アグー75
%」の肉豚が供された。

注1:「アグー」とは、沖縄県アグー
385年に中国から導入されたラ
ードタイプの島豚。
注2:「アヨー」とは、140年前に
沖縄に渡来した黒毛にところどころ
白毛が混じった島豚で、大正末期か
ら昭和初期に首里近辺で飼われてい
た沖縄在来豚。

注3:「アグー」とは、沖縄県アグー
ブランド豚推進協議会認定農場で
指定配合飼料を給与された「アグ
ー」を交配した肉豚。

試食会の開催に当たり、ミートコ
ンパニオン子会社、(株)日本カイハツ
ミートの阿部昌史社長があいさつを
述べ、「食肉消費が減退する昨今だ
が、一方ではブランド食肉も大変支
持を得ているのも事実であり、各地
でブランドが誕生してきている。そ
の中で我々は「TOKYO X」に
続く、第2、第3のブランド豚肉を
準備して、本日ご参加の流通、外食
企業の方々、消費者の方々に継続的
に支持していただけようにした
い。「アグー」は最近認知度が高ま
っているが、宣伝が先行しており、
定義がややいまいになつていて点
があるので、我々もアグーをしっかりと
研究して今後につなげていきたい
と思っている」と今後、慎重に「ア